記者発表資料

平成２５年５月２７日
東 北 地 方 整 備 局

平成２５年度　都市景観大賞において、建築と子供たちネットワーク仙台（宮城県仙台市）が【景観教育・普及啓発部門】で「大賞」を受賞

都市景観大賞は、平成２３年度から、公共的空間と建物等が一体となって良質で優れた都市景観が形成され、市民に十分に活用されている地区を対象にした【都市空間部門】と、小中学校における景観まちづくり教育、まち歩き、景観に関するセミナーなど、景観に関する教育、意識啓発、知識の普及等に取り組んでいる活動を対象にした【景観教育・普及啓発部門】の２つの部門で景観に関する優れた地区・活動に対し表彰を行っております。

この度、東北から【景観教育・普及啓発部門】で「建築と子供たちネットワーク仙台」（宮城県仙台市）が「大賞」に選定されました。

都市景観大賞は、平成２３年度から【都市空間部門】と【景観教育・普及啓発部門】の２部門で実施され、大賞(国土交通大臣表彰）、優秀賞等が選定されています。

全国各地からの応募の中から、【都市空間部門】においては、「大賞」３地区、「優秀賞」２地区、「特別賞」２地区が、また、【景観教育・普及啓発部門】においては、「大賞」２団体、「優秀賞」２団体が選定されました。

なお、「大賞」（国土交通大臣賞）の表彰につきましては、６月１４日(金)に「すまい・るホール（住宅金融支援機構内）」（東京都文京区後楽）開催される「まちづくりと景観を考える全国大会」において行われます。

別紙１　平成２５年度都市景観大賞「都市空間部門」受賞地区の概要及び「景観教育・普及啓発部門」受賞団体の活動内容
別紙２　東北管内受賞地区履歴一覧（平成１６年度～平成２４年度）
※平成１３年度から平成２２年度までは「美しいまちなみ賞」として表彰

〈発表記者クラブ：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会）

〈問い合わせ先〉
国土交通省　東北地方整備局　電話　022-225-2171（代表）
建政部　都市調整官　脇坂　隆一　（内6113）
計画・建設産業課長　片川　覚　（内6121）

東北管内受賞概要

【景観教育・普及啓発部門】

「大賞」（国土交通大臣賞）

■活動名：子どもが参画する歴史的建造物の景観再生プロジェクト –出会いから震災復興まで–
■所在地：宮城県仙台市
■応募者：建築と子供たちネットワーク仙台

■活動の概要：

仙台市において、建築と子供たちネットワーク仙台（建築・デザイン関係の専門家・行政職員を中心に結成された NPO）は、未来を担う子どもたちの創造力を培い、よりよい景観まちづくりへの意識の芽を育むための教育活動を実践するため、2001 年より仙台を南北に貫く旧奥州街道沿いの歴史的景観資源を保全し、子どもたちの教育に活用する取り組みを継続的に展開している。東日本大震災後は、震災で大きな被害を受けた「堤町まちかど博物館」や「旧丸木商店店蔵」を子どもたちの参画によって再生する活動を中心に取り組んでいる。修復にあたっては、長期にわたり築いてきたネットワークを駆使し、多様な団体と連携して行われた。

この震災復興の活動は、震災で少なからず傷ついてしまったみんなの心が元気になっていくことにもつながった。

また、これまでの継続的な活動が徐々に実を結び、市内の他の地域からも多くの子どもたちが参加するようになる等、仙台の歴史文化を学ぶ学習拠点として広がりをみせている。



職人さんにハンマーやタガネの使い方を教えてもらい、崩落した窯内から運び出したレンガから土をはつり取っている様子。



「修復した登り窯」：堤町まちかど博物館

子どもたちがデザインした“紋”が格子にはめ込まれ蔵を飾った。







平成２５年度　都市景観大賞受賞一覧

【都市空間部門】

「大賞」　３地区

地　区　名	応　　募　　者
八条ケ池周辺地区 （京都府長岡京市）	・長岡京市
城下町長府地区 （山口県下関市）	・城下町長府景観協議会 ・下関市
熊本駅周辺地区 （熊本県熊本市）	・熊本県 ・熊本市 ・熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議

「優秀賞」　２地区

地　区　名	応　　募　　者
日立駅周辺地区 （茨城県日立市）	・日立市 ・東日本旅客鉄道株式会社 ・株式会社妹島和世建築設計事務所
高松丸亀町Ｇ街区地区 （香川県高松市）	・丸亀町グリーン株式会社

「特別賞」　２地区

地　区　名	応　　募　　者
肥前浜宿地区 （佐賀県鹿島市）	・肥前浜宿まちづくり協議会 ・特定非営利活動法人　肥前浜宿水とまちなみの会 ・鹿島市
鹿児島市地区 市電軌道敷緑化整備事業 （鹿児島県鹿児島市）	・鹿児島市

【景観教育・普及啓発部門】

「大賞」　２団体

活　動　名	応　　募　　者
子どもが参画する歴史的建造物の景観再生プロジェクト －出会いから震災復興まで－ （宮城県仙台市）	**建築と子供たちネットワーク仙台**
関門地区（北九州市・下関市）景観ウォッチング＆セミナー （福岡県北九州市及び近隣下関市内一円）	・公益社団法人 福岡県建築士会北九州地域会 ・山口県建築士会下関支部 ・関門景観協議会（下関市・北九州市）

「優秀賞」　２団体

活　動　名	応　　募　　者
そらち旧産炭地域における“炭鉱の記憶”の保存・活用 （北海道空知地域）	・特定非営利活動法人　炭鉱の記憶推進事業団
郷土への誇りと愛着を育む「家康学習と景観まちづくり学習」 （愛知県岡崎市）	・岡崎市立大樹寺小学校

【別紙1】

平成 25 年度　都市景観大賞

「都市空間部門」受賞地区の概要
及び
「景観教育・普及啓発部門」受賞団体の活動の概要

「都市景観の日」実行委員会

「都市空間部門」

受賞地区一覧

「大賞」（国土交通大臣賞）

地　区　名	地区面積	応　募　者
はちじょうがいけしゅうへん 八条ケ池周辺地区 （京都府長岡京市）	約 12.81 ha	・長岡京市
じょうかまちちょうふ 城下町長府地区 （山口県下関市）	約 51.8 ha	・城下町長府景観協議会 ・下関市
くまもとえきしゅうへん 熊本駅周辺地区 （熊本県熊本市）	約 63.2 ha	・熊本県 ・熊本市 ・熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議

「優秀賞」（財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞）

地　区　名	地区面積	応　募　者
ひたちえきしゅうへん 日立駅周辺地区 （茨城県日立市）	約 4.0 ha	・日立市 ・東日本旅客鉄道株式会社 ・株式会社 妹島和世建築設計事務所
たかまつまるがめまちじーがいく 高松丸亀町Ｇ街区地区 （香川県高松市）	約 1.2 ha	・丸亀町グリーン株式会社

「特別賞」（財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞）

地　区　名	地区面積	応　募　者
ひぜんはましゅく 肥前浜宿地区 （佐賀県鹿島市）	約 15.4 ha	・肥前浜宿まちづくり協議会 ・特定非営利活動法人 肥前浜宿水とまちなみの会 ・鹿島市
かごしまし 鹿児島市地区 しでんきどうじきりょっかせいびじぎょう 市電軌道敷緑化整備事業 （鹿児島県鹿児島市）	道路との併用区間 8.9 km 35,000㎡	・鹿児島市

総評（審査委員長：陣内秀信）

都市景観をテーマとする街づくりは、今や日本各地で定着した感が強い。今年も多種多彩な内容の多くの応募があり、景観への取り組みが様々に展開していることを裏付けてくれた。現代的な大規模開発の事例、小さな規模の伝統的な町並み景観づくり、水辺の試みなど、ジャンルもバランスのよい広がりを見せた。とはいえ、伝統的な町並みに関しては、全国的に著名なものの応募がなく、いささか寂しい。今後へ期待したい。

今年の特徴の一つは、駅周辺の開発が多かったことにある。稚内駅、日立駅、東京の丸の内駅、高槻駅、熊本駅というＪＲの駅前、あるいは駅周辺の地区の景観形成での応募が目立った。経済的事情もあって我が国での大きな規模での開発、都市づくりがしにくい状況にあって、駅周辺にそのエネルギーが集中する傾向が見てとれる。とはいえ、この都市景観大賞の主旨からして、象徴的な駅舎建築だけ見事につくられても意味がなく、広場および周辺が一体となって優れた景観を生むことが求められる。

大賞を受賞した３件は、各ジャンルを代表するようなとりわけ優れた事例であった。熊本県熊本市の「熊本駅周辺地区」は、多分野の専門家からなる都市空間デザイン会議のもと、駅前に楽しくゆとりのある美しい空間を実現し、水辺も含む周辺との魅力的な繋がりも生まれており、その総合的なデザインの力が圧倒的な評価を得た。

長岡京市の「八条ケ池周辺地区」は、池周辺の区域に高度規制をかけ、開放的な眺めを阻害する建物が建たないようにし、水と緑のランドスケープを継承するとともに、視点場としての池からの背後の山並みへの眺望を守っている努力が審査員の共感を呼んだ。

下関市の「城下町長府地区」は、武家屋敷の土塀や門などが独特の雰囲気を醸し出す歴史的な町並みを、地域住民主体の街づくり協定によって保存し、地域資産を市民生活の舞台として活かしている点が高く評価された。

優秀賞のうち、日立市の「日立駅周辺地区」は、立地条件を活かし、世界的に著名な建築家のデザインで、青い海と大きな空に開く展望スペースを組み込んだ魅力的な施設を駅前広場周辺に実現し、目を引いた。高松市の「高松丸亀町Ｇ街区地区」は、中心市街地の活性化、個性化の有力な一手法として評価された。

鹿児島市が長年取り組んできた「市電軌道敷緑化整備事業」には、その継続的な努力が生んだ優れた成果に対し、ユニークな茅葺町家群からなる鹿島市の「肥前浜宿地区」には、これからつくり上げる期待を込めて、それぞれ特別賞が与えられた。

応募を見ると、南・西の日本に多く、東・北に薄い傾向が目立つ。特に応募がなかった東北地方には、次年度に是非とも期待したい。

「大賞」（国土交通大臣賞）

■地区名：八条ケ池周辺地区
■面　積：約 12.81 ha　　■所在地：京都府長岡京市
■応募者：長岡京市

■地区の概要：

当地区は長岡京市内にあり、阪急長岡天神駅から徒歩 6 分、JR 長岡京駅から徒歩 14 分と、市の中心市街地に程近い場所にありながら、広大な池と桜並木、本市の観光資源であるキリシマツツジの群生を有する緑豊かな空間を維持する地区である。もともと本市一帯を治めていた八条宮家の所領する灌漑用の溜池を、管理主体が市に移行後、市町村シンボルづくり事業の一環として、中堤の拡幅や水上橋の設置、遊歩道の整備等を行った。加え、八条ケ池周辺一帯は、第 1 種高度地区の高さ規制、第 1 種低層住居専用地域に指定されており、その結果、背景の西山連峰と一帯となった非常に広々とした豊かな水と緑を湛えた空間を生みだす事に成功している。また、付近一帯も風致地区の指定を受け、和風を基本とした落ち着いた建物が並び、長岡天満宮の鎮守の森と協調した一体感のある街区が形成されている。

なお、各シーズンには市民による様々なイベントが開催され、周辺自治体をはじめ遠方からも観光客が来訪する。催しの時期に限らず、年間を通じ散歩コースとして親しまれ、市民の憩い・交流の場として機能し、長岡京市を象徴する場所として市民にも深く愛される場所となっている。

■審査講評：

古くは「長岡京」の都が置かれ、王城の地として栄えたことに始まり、その後、それぞれの時代の創意工夫によって環境整備が積み重ねられてきた歴史の厚みを感じさせる都市である。また、歴史都市・京都と商都・大阪の中間に位置する地の利と西山の豊かな自然から風光に優れた都市環境が整っている。対象地区はその中心に位置し、長い年月の中でじっくりと育まれた歴史資産と生活環境の融合が図られた好例と評価できる。

長岡天満宮の前池としてまた灌漑用の用水として造営された八条ケ池のほとりから遠く西山を望む景観は実に美しい。西山全体の稜線を損なうことのないよう市街地には 1 種低層、1 種高度、2 種高度といった高度規制等が設けられており、市全体の取組がこの地区の景観を守っている。水上を渡る木橋、水際に浮かぶ老舗料亭はキリシマツツジの堤とともに心地よい近景を形成している。加えて対象地区内の住宅地は風致地区に位置けられ、また景観条例によってコントロールされており、八幡宮及び公園の緑地と連係のとれた街並を形成している。

この水景、緑景、生活景が一体となった景観は観光的価値を高めることにもつながっているようだ。また、四季を通じた様々な催しを行うことで広く市民に愛される場となっており、今後も市民交流の中心として多くを期待できる。

現在、長岡京は京都や大阪のベッドタウンとして利便性の高い都市でありながら、歴史に育まれた景観を守り活用し、後世に受け継いでいこうとする官民の弛まぬ努力はそれによって創出される景観的価値とともに充分大賞に値する。

（富田）



八条ケ池周辺地区全景。水上橋・キリシマツツジ・老舗料亭・一般住宅などが公園と境内の木々の中に溶け込み、一帯で調和のとれた景観を成している。



満開の時期のキリシマツツジの群生。樹齢は百数十年と言われ、人の背より高く茂る。現在は市が維持管理を行っている。



周辺の高度規制や用途指定により、開放感のある景観が生まれている。遠景には西山連峰が見え、一繋がりの景観をなす。



八条ケ池は、一年を通じて市民の憩いの場・交流の場であり、人気の散歩コースとなっている。

■地区名：城下町長府地区
■面　積：約 51.8ha　　■所在地：山口県下関市
■応募者：城下町長府景観協議会／下関市

■地区の概要：

当地区は下関市の東側周防灘に面した海岸沿いに位置し、土塀や門など武家屋敷の遺構が残る歴史的地区である。現在も江戸期の町割りや道筋がほぼそのまま残されており、石垣・練塀と背景となる豊かな緑が織りなす街路景観には、城下町の風情が漂っている。また、近隣の商店街は 昭和の街なみを形成しており、ひとつの地区内で、江戸期から昭和期までの歴史や伝統、街なみや自然が味わえる地区となっている。

整備前は高層マンションや洋風建築物等、歴史的な街なみにそぐわない建築物の建築によって城下町長府の趣や落ち着きのある住環境が損なわれてきたが、伝統的な街なみの保存を図るとともに、快適性の高い住環境の整備を推進していくため、行政による街なみ環境整備事業の実施及び地域住民の街づくり協定締結等により、城下町長府にふさわしい街なみ景観が形成された。

地区内及び地区周辺では、整備された空間を活用して多彩なイベント開催やホタル保存等維持管理活動が行われている。こうした魅力ある美しい街なみの整備によって、地区内の歩行者だけでなく、観光客も増加傾向にあり、新しい賑わいの拠点となっている。

■審査講評：

城下町長府地区は、古事記や日本書紀にも記された 1800 年の歴史をもつ町である。当該地区は、忌宮神社を中核として町が形成されており、長府藩 5 万石の古い街なみと鎌倉時代の禅宗様形式の国宝の功山寺をはじめとする社寺を残すほか、旧山陽道沿い及び忌宮神社参道に長府商店街が存在する。城に近い場所には武士を置き、外れるに従って軽身の家臣屋敷を配し、山陽道に沿って町人が住むという城下町としては珍しい配置の町割りが練塀とともに残存し、中世以来の町並みの情緒を今に伝えている。この地区では、平成 4 年から歴史的地区環境整備街路事業がはじまり、平成 6 年に城下町長府まちづくり協議会が設立、平成 7 年には官民一体となった「街づくり協定」が結ばれた。平成 8 年には、「下関市長府地区街なみ環境整備地区デザインマニュアル」を策定し、街並み整備助成事業や市単独の景観まちづくり支援事業により、4 地区及びその周辺地域 51.8ha の広い地域において住宅地や商店街の修景が行われた。結果として、江戸期から昭和までの歴史や伝統、水と緑が織りなす独特の景観を生み出し、菅家長屋門のある古江小路地区や狭い路地の続く横枕小路などでは、往時の風情をそのまま残している。地区では、地元団体を中心にワークショップやクリスマスイベント、地区内を流れる壇具川ホタル保存プロジェクトなど、活発な活動がおこなわれている。また、近年では古民家を再生活用した店舗や飲食店などにも若い世代の出店が出現しており、景観向上による地域活性化効果も出てきており、観光客の増加にも寄与している。さらに、城下町長府景観協議会を設立し、景観協定の締結を目指して活動が始まっていることから、国土交通大臣賞にふさわしいといえる。（池邊）


土塀の街なみが美しい古江小路地区。城下町長府の観光名所のひとつとなっている。


親水性と生活道路としての機能を考慮して整備されている壇具川地区の道路。


下関市指定文化財「菅家長屋門」と長府地区の象徴である練塀。


古民家を再生した店舗が建ち並ぶ惣社地区。

■地区名：熊本駅周辺地区
■面　積：約 63.2ha　　■所在地：熊本県熊本市
■応募者：熊本県／熊本市／熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議

■地区の概要：

当地区は熊本市にある JR 鹿児島本線の熊本駅周辺に位置する。熊本の陸の玄関で交通の要衝でありながら、市街地の中心部から約 3km 離れていることもあり、整備前は小規模な都市機能の集積にとどまっていた。九州新幹線の開業、在来線の高架化の計画により、分断されていた東西の地区が平面で連続するため、西側では土地区画整理事業を施行、東西の駅前広場の整備と拡張、東側では市街地再開発事業を施行、また合同庁舎の移転などを進め、周辺の都市計画道路の整備を行った。駅周辺整備では、交通機能が重視されがちな駅前でありながら駅利用者が待ち時間をゆったりと過ごせるような広場のある公園のような駅として、日常的に通学・通勤や散歩などをする住民の方にも楽しい通りや場所となる駅のような公園として、様々な関係者との協議の下に計画を策定し、官民に境界が無く相互に作用し合うような都市デザインの調整を行った。

当地区の整備は新幹線開業と在来線高架化を目標とする二段階整備で進めており、県と市は、熊本駅周辺地域における良好な都市空間の形成を図るとともに、事業主体間の調整によるデザインの統一性や長期にわたるデザインの一貫性を図るシステムを構築するため、「熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議」を設置、計画・設計・施工の期間だけでなく一期工事完成後も二期工事に向けて時々の社会状況に合わせた計画の見直しを継続的に行っている。

■審査講評：

本計画は、熊本駅周辺の駅前広場、街路、河川などの公共空間を一体的に整備したものである。計画の実施にあたっては、「熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議」が組織され、各事業者と市民をつなぎ、きめ細かな調整が行われた。そのプロセスでは 100 回を超えるワーキングが開催され、詳細な調整がおこなわれた。結果として、各空間のデザインレベルは大変高いものとなり、他都市にない特徴的都市空間が形成されている。特に、東西の駅前広場は、照明やサインなどを組み合わせた連続壁面や大屋根を有する個性豊かな場となっている。一般に、駅前広場はバスターミナルとタクシープールがその主体となりがちであるが、巧みな配置計画を行い駅前の印象を一変させている。また、路面電車とのアクセスも良く、駅前広場に連続する街路の緑化と相まって「公園のような駅・駅のような公園」を実現させた。国際的に見てもその質は高く評価されるものと言えるだろう。今回、公共空間は一応の完成を見せたが、今後各街区の建築が進行する中で、都市景観総体としての高い質が継承発展していくことが望まれる。（田中）



当地区を南方へ望む。熊本駅（右）から交流広場（左下）や木立の景（中央）へ緑が広がる。公園のような駅、駅のような公園とした駅周辺整備。



熊本駅から「出会の景」を望む。阿蘇を眺め再開発地区と繋がる駅前の大きなタマリ空間と大屋根（右）。
「出会の景」：熊本駅を中心に東西の駅前広場、再開発地区を含み、花岡山・万日山から白川・坪井川を抜け阿蘇を望む



歩道の脇を走るサイドリザベーション化された路面電車と多様な樹木が重なり合う「木立の景」。
「木立の景」：駅前を南北に貫く路面電車通り沿い



再開発地区（右）から坪井川（左）へとゆるやかに結ぶスロープのある「水辺の景」の拠点となる水辺広場。
「水辺の景」：坪井川周辺

「優秀賞」（財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞）

■地区名：日立駅周辺地区
■面　積：約 4.0ha　　■所在地：茨城県日立市
■応募者：日立市／東日本旅客鉄道株式会社／株式会社 妹島和世建築設計事務所

■地区の概要：

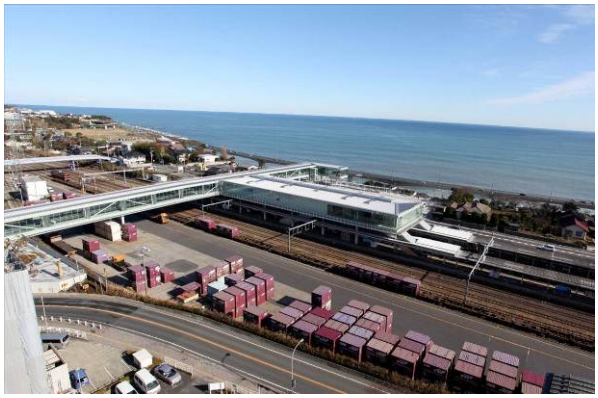
当地区はＪＲ常磐線日立駅とその周辺を含む地区である。都市拠点性の強化及び交流人口の拡大を図るため、日立駅舎改築及び周辺地区整備を進めてきており、東日本大震災を乗り越え、平成 23 年 4 月、日立市の新しい玄関口となる日立駅が誕生した。日立駅自由通路と橋上駅舎は、周辺環境になじむよう高さを低く抑え、平面的に広がりながら、自由通路東西口の公共施設や駅前広場へと繋がり、一体的なまとまりを作り上げている。建物全面は透明なガラススクリーンに覆われ、他には類を見ない至る所から太平洋を一望できる開放的で魅力ある空間を創出している。

整備にあたって日立市は、鉄道事業者が事業主体である駅舎の整備と自由通路を始め日立市が行う関連する都市基盤整備及び民間施設誘導等について、一体的で整合のとれたデザインによる景観形成を行い、まちの顔にふさわしい都市空間を実現するため、「デザイン監修者（妹島和世氏）」を位置付けた。デザイン監修者が設計から工事に至るまで全ての事業に関わることにより、建築と土木を融合した連続性、一体感のあるデザインの実現に至った。その結果、単なる通過点であった駅が、多様な交流を育む交流拠点として、訪れた人々の記憶に残り、明日への生きる活力を与える場所となった。

■審査講評：

本地区は、鉄道事業者（東日本旅客鉄道株式会社）が事業主体である駅舎整備と日立市が関連する都市施設整備（自由通路・駅前広場の一部）・民間施設誘導に関して、全体を統括するデザイン監修者（妹島和世建築設計事務所）を選定した上で、関係者が一堂に会するデザイン調整会議を設置・運営して、一体的で整合のとれた景観を実現することに成功している。具体的な空間の設えとしては、海への近接性を強く意識した新たなビューポイントを巧みに創出した点が特筆に値するし、駅舎・駅前広場を含めて高さを抑えて、軽やかで連続的な空間デザインを実現している点が高く評価される。

今回の申請は鉄道施設と駅前広場の一部など近年整備が実現した部分を対象としたものであったが、今後とも日立市中心駅の都市景観整備として、既設の駅前広場や駅前から出る大通り（平和通り）そしてその周辺の建築物まで含めた取り組み、さらには隣接するシビックセンター地区の都市広場や建築物群との一体感の実現など、本地区での動きがより一層拡大・進展することを期待したい。（岸井）



山側と海側をつなぐ自由通路と橋上駅舎。日立の青い海と大きな空。周辺環境になじむよう高さを低く抑え、一体的な空間を創出する。



中央口駅前広場より東をみる。施設が連続しまとまりある空間を創る。屋根の高さを揃え、スカイラインを統一するとともに、看板類についても、配置に統一性を持たせる誘導を行った。



駅コンコースから東側を見る。日立の海を感じられる場所。
柱など出来る限り軽やかな構造体とするとともに、ガラススクリーンを全面使用することにより、海やまちの風景を遮らず開放性を高め、日常的に親しみやすい空間を実現している。



自由通路の東側突当りの展望スペース。視界を遮ることなく海を一望できる。自由通路東側先端からの眺めは圧巻であり、いつでも、人々が滞留している。

■地区名：高松丸亀町Ｇ街区地区
■面　積：約 1.2ha　　■所在地：香川県高松市
■応募者：丸亀町グリーン株式会社

■地区の概要：

当地区は、瀬戸の都高松（香川県高松市）の中心商店街の中心部に位置する。アーケード街である丸亀町商店街に面した区域を中心に東西の飲食街を取り込んだ形の再開発事業で誕生した地区である。郊外への大型店の出店ラッシュによる中心市街地の空洞化が危惧される状況のなか、高松市中心市街地活性化の中核事業としての期待を背負って、平成 24 年春に竣工、オープンした。

敷地中心部に賑わいの核となる広場（約 300 坪）、屋上部分には開放された庭園を整備し、商店街に不足していた来街者が憩えるゆとりある空間、イベント等を行うコミュニティ拠点空間、安心して子供を遊ばせる空間を創出した。また、商店街に面した部分の壁面後退、建築物の高さ規制等を設け、土地の合理的かつ健全な高度利用、中心商店街としてふさわしい調和のとれた街並みの形成、自転車利用が多い高松の特徴を加味したゆとりある歩行空間を創出する等、官民一体のまちなみ整備が行われている。その他、施設閉館時にも商店街を通りたくなる工夫として、ショーウィンドウを義務化し、シャッターのない街づくりを実現する等、様々な取組みを実践しており、その結果、開業後商店街の通行量が倍に増加する等の賑わいが生みだされている。

■審査講評：

高松の丸亀町は、いまや商店街再生の成功事例として全国に名が通っている。その名を聞いて人々が思い浮かべるのが、あのガラスのドームであろう。地方都市の商店街再生に成果を挙げている事例はもちろん全国にあるが、そのイメージは、店先の商品とともにはじける人々の笑顔、あるいはモニュメントであって、パースペクティブな眺めとして印象づけられ、差別化される事例は、そう多くないと思う。今回の受賞対象の G 街区は、かのドームのある通りの延長線上にある。このいかにも記号的呼び名は、丸亀町グリーンというビル名称に変化（へんげ）したが、丸いドームと対象的な、直線的でくっきりとしたファサードと屋根に光が充ちた半屋外のデザインとして、やはり視覚的に記憶されるに違いない。街路幅員（D）と建物高さ（H）の比、D/H とは、都市デザインの専門家にはなじみの指標だが、それを事業できっちり位置づける例は、まず聞かない。適度な囲われ感が出現している。いうまでもなくこの空間を実現することが目的ではなく、商いと暮らしの再生のための事業であり、そのための苦労は計り知れない。しかしそれをきちんと目に見える姿形で印象づけること。本賞に誠にふさわしい成果である。（佐々木）



当地区は高松丸亀町商店街の国道 11 号線の玄関である。
屋上庭園が整備され、環境に配慮した憩い空間を創出している。



国道 11 号線から丸亀町グリーンを眺める。商店街のアーケード、街路整備、沿道建築物のファサード改修整備がされ、中心市街地としてふさわしい街並みを形成している。



丸亀町グリーンの商店街の様子。シャッターのない店造り、官民により一体的な舗装が特徴。店舗にオーニング（庇）の設置を義務づけ、心地よい環境を演出している。



丸亀町グリーンの広場（約 300 坪）。シンボルツリーの植樹、広場、官民（高松市、丸亀町グリーン）による一体的な舗装が特徴。一体的な空間を創出している。

「特別賞」（財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞）

■地区名：肥前浜宿地区
■面　積：約 15.4ha　　■所在地：佐賀県鹿島市
■応募者：肥前浜宿まちづくり協議会／特定非営利活動法人 肥前浜宿水とまちなみの会／鹿島市

■地区の概要：

当地区は、旧長崎街道多良海道沿いで有明海に注ぐ浜川の河口近くに位置する。JR 肥前浜駅前につながる駅前通り地区、酒蔵が建ち並ぶ酒蔵通り地区、港町の庄金・南舟津地区からなり、江戸時代からほぼ変わらない地割とともに、江戸末期から昭和前期にかけての伝統的な建物が多く残る地区であり、浜川を挟んで、それぞれ特徴的な景観を形成している。

地区内には伝建地区の保存物件として、建造物が約 160 件指定されており、平成 18 年の重伝建地区選定以降、伝建事業による伝統的建造物の修理及び非伝統的建造物の修景、水路等の整備が徐々に進められている。あわせて、街なみ環境整備事業による住宅等修景、公園整備、道路美装化、電柱移設、防犯灯設置等の景観整備も進行中であり、年々美しいまちなみへと進化している。

なお、まちなみ保存のきっかけとなった継続的な地元でのイベント開催、地元酒蔵の各賞の受賞、ボランティアガイドの育成等、地道な活動が徐々に実を結び、10 年前はほとんどいなかった観光客が、現在では年間 7 万人ほど訪れる。古いまちなみの景観を守るハード事業と、地域活性化のためのソフト事業の相乗効果が観光客の増加に繋がっている。

■審査講評：

対象地区は平成 18 年に重要伝統的建造物群保存地区の指定を受け、平成 15 年頃より地元で盛り上がっていた歴史的な街なみを活かした街づくりに邁進してきた。指定地区は浜中町八本木宿地区と浜庄津町浜金屋町地区の 2 地区に分かれており、両地区に伝統的建造物（建築物）は 160 件指定されている。指定から 7 年の間にこのうち 36 件（一部年度に跨がる重複あり）の修復を終えてきた。審査のため現地を訪れたが、修復が終わり歴史的街なみの雰囲気がある箇所と手つかずでそういった趣からは異なる箇所の差は大きい。事前の下調べ時にみた写真から現地は一層整備が進んでいた。いまだ十分ではない道路など公共施設部分の整備や、箇所により異なる整備状況、また結構区間が長いため雰囲気がある箇所は限定的であるなど、都市景観大賞の受賞地区であると聞いて訪れた人は、ここが受賞地区なのかと疑問を持たれる場所も未だ多く残っている。しかし数年でここまで持ってきた意欲、努力は評価できる。このため、引き続きスピーディに整備が進められ、数年の内に対象地区の多くの場所で良好な景観が作られることを期待して、特別賞として表彰することとしたものである。（高見）



当地区は、浜川沿いに位置する。写真では川の奥（対岸）に旧長崎街道が通る。酒蔵の煙突が建ち並び、独特の景観を形成している。



旧長崎街道から路地を入った奥にある茅葺町家群。伝建事業で、茅葺の３棟の修理を同時に行った。現在は、地区を訪れる人々に公開している。



酒蔵通り（旧長崎街道多良海道）。伝建事業での建物の修理や街環事業での道路美装化を行った。手前の白壁土蔵の建物は継場と呼ばれ、現在はまちなみ観光案内所となっている。隣の洋風建築は、旧郵便局で現在地区の公民館として活用されている。



鹿島市指定文化財旧乗田家住宅。基本的には農家住宅であるが、武家の様式も持つ。当地区の半農半武士の生活様式を伺うことができる。

■地区名：鹿児島市地区　市電軌道敷緑化整備事業
■面　積：道路との併用区間　8.9 km　35,000㎡　　■所在地：鹿児島県鹿児島市
■応募者：鹿児島市

■地区の概要：

当地区は、鹿児島中央駅前広場、商業施設が集積した駅ビル、「南の交流拠点都市・鹿児島」の玄関である鹿児島中央駅から、各種商業施設、オフィス、南九州随一の繁華街、官公庁等など様々な高次都市機能が集積する本市のまちの顔として発展してきた都心部地区である。

本市の中心市街地を通る路面電車の軌道敷部分を芝生によって緑化し、都市の中心部を帯状に結ぶ緑の景観軸を形成し、都市景観の向上やヒートアイランド現象の緩和などの多面的な効用を実現したものである。昼間は緑の景観、夜間はライトアップにより独特の街並み景観を演出しており、軌道敷が中心市街地のランドマーク、景観資源、環境資源として生まれ変わることにより、来街者に潤いと安らぎを提供、まちの魅力アップによって来街者が増加し、中心市街地の活性化にも貢献している。市民、観光客等からも高い評価を受け、都市の緑化において先導的な役割を果たしている。

平成 24 年 11 月には道路との併用区間の全線緑化が完成し、翌 12 月には電車運行 100 周年を記念した観光レトロ電車が運行を開始するなど、本市の貴重な景観、観光資源である市電と軌道敷緑化について、今後ともまちづくりに各面から活用していく取組みを推進する。

■審査講評：

鹿児島市は、平成 18 年から 24 年までの 7 年間にわたって、道路と併用する路面電車の軌道敷全域での緑化事業を実施した。延長 8.9km、芝生面積 35,000 ㎡は、全国一の規模である。中央分離帯の照明ポールや花壇、車道境界部の柵や架線についても、景観的な配慮をしている。また、16cm しか植栽基盤が確保できないという悪条件で、火山噴出物を利用したシラス緑化基盤を開発したことと、さらに芝生の維持管理のために、「芝刈・散水電車」を開発したことは大変ユニークな取り組みである。

この軌道敷緑化事業は「景観・魅力の向上」という点から、市電利用者から 89%、沿線住民や従業者からは 86%という高い評価を得ていると共に、地表面温度の低下、周辺騒音の低減にも寄与している。このことから、本事業は、景観と環境の両面から高く評価することができる。

今後は、本事業を契機として、事業が実施された道路全体の景観改善、さらには沿道建物の景観誘導へと事業がより拡大展開していくことを多いに期待したい。（卯月）



都市の中心部を帯状に結ぶ緑の景観軸を形成する軌道敷緑化。
南九州最大の祭り「おはらまつり」で歩行者天国となる。
まちの魅力アップ、中心市街地活性化にも貢献している。



花壇に映えるポインセチアと軌道敷緑化。架空線の市電センターポール化を行い、中央分離帯上の主要な部分にはフラワーポットを設置する等、四季の表情豊かな花と緑の街づくりを推進している。



運行 100 周年を記念した観光レトロ電車「かごでん」と軌道敷緑化。本市の貴重な景観、観光資源としての活用を図る。



本市が独自に開発した維持管理に活躍する芝刈・散水電車（夜間作業）廃車となった電車を改造して作った芝刈装置を、散水用ノズルやタンクを装備した散水電車が機関車役となって牽引するという、ユニークなアイデアによるものである。

「景観教育・普及啓発部門」

受賞団体一覧

「大賞」（国土交通大臣賞）

活　動　名	所在地	応　募　者
子どもが参画する歴史的建造物の景観再生プロジェクト −出会いから震災復興まで−	宮城県仙台市	・建築と子供たちネットワーク仙台
関門地区（北九州市・下関市）景観ウォッチング＆セミナー	福岡県北九州市及び近隣 下関市内一円	・公益社団法人 福岡県建築士会北九州地域会 ・山口県建築士会下関支部 ・関門景観協議会（下関市・北九州市）

「優秀賞」（財団法人（財）都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞）

活　動　名	所在地	応　募　者
そらち旧産炭地域における“炭鉱の記憶”の保存・活用	北海道空知地域	・特定非営利活動法人 炭鉱の記憶推進事業団
郷土への誇りと愛着を育む「家康学習と景観まちづくり学習」	愛知県岡崎市	・岡崎市立大樹寺小学校

「大賞」（国土交通大臣賞）

■活動名：子どもが参画する歴史的建造物の景観再生プロジェクト –出会いから震災復興まで–
■所在地：宮城県仙台市
■応募者：建築と子供たちネットワーク仙台


職人さんにハンマーやタガネの使い方を教えてもらい、崩落した窯内から運び出したレンガから土をはつり取っている様子。

■活動の概要：

仙台市において、建築と子供たちネットワーク仙台（建築・デザイン関係の専門家･行政職員を中心に結成された NPO）は､未来を担う子どもたちの創造力を培い、よりよい景観まちづくりへの意識の芽を育むための教育活動を実践するため、2001 年より仙台を南北に貫く旧奥州街道沿いの歴史的景観資源を保全し、子どもたちの教育に活用する取り組みを継続的に展開している。東日本大震災後は、震災で大きな被害を受けた「堤町まちかど博物館」や「旧丸木商店店蔵」を子どもたちの参画によって再生する活動を中心に取り組んでいる。修復にあたっては、長期にわたり築いてきたネットワークを駆使し、多様な団体と連携して行われた。
この震災復興の活動は、震災で少なからず傷ついてしまったみんなの心が元気になっていくことにもつながった。
また、これまでの継続的な活動が徐々に実を結び、市内の他の地域からも多くの子どもたちが参加するようになる等、仙台の歴史文化を学ぶ学習拠点として広がりをみせている。

■審査講評：

20 年にわたる活動は実績もあり仙台市の教育プログラムの中にもすっかり定着している。特徴的なことは、他地域で多く見られるゲストティーチャー派遣型ではなく、単元そのものを現場教師と作り上げていく点である。基本的なプログラムをもとにしながら学校ごとにオリジナルが生まれるのは、そういうかかわり方があるからだろう。専門家の知識や経験の提供ではなく、サポートしながら共に作り上げていくところが、若手教員の育成など学校現場のニーズに対応できるようになっている。

歴史的建造物の保全保護に関しては、地域の子供たちが保全に参加することで、所有者は所持する建造物に教材としての価値を見出し、地域財産として認識し、維持することにしたという。また、関わった子供たちが自ら手を加えたことで地域の歴史的建造物に愛着を持てるようになっている。

また、行政関係者もメンバーに加わっていることから保護・助成・各種指定に関する情報や必要性、価値などの情報が迅速に伝えられ対応できているようである。専門家、学校関係者、歴史的建造物所有者、地域住民の関係が一方的な提供者と享受者の関係とならず、お互いに補填しあっている関係性が築かれている。継続性、連携の在り方、教育内容を総合的にみても完成度の高い活動として、大賞に値すると思われる。（大道）

■活動名：関門地区（北九州市・下関市）景観ウォッチング＆セミナー
■所在地：福岡県北九州市及び近隣　下関市内一円
■応募者：公益社団法人 福岡県建築士会北九州地域会／
山口県建築士会下関支部／関門景観協議会（下関市・北九州市）


建物や自然、看板などを対象に街なみの色彩調査のウォッチング後、セミナーにて調査発表を行っている様子。

■活動の概要：

関門景観は、関門海峡並びにそれに面した地域における山並み等の自然環境、歴史や文化が薫る街並み及び人々の営みなどにより育まれてきた魅力ある景観であり、両市民はもとより、全ての人々にとってかけがえのない共通財産となっている。

北九州市と下関市の建築士会は、このかけがえのない財産を守り・育て・未来に継承していくため、地域に貢献していきたいと考え、平成 16 年から共同で「関門地区景観ウォッチング＆セミナー」（全 8 回、延べ 765 名の参加者）を開催している。

毎年、幅広い年代・分野の方々の参加を得ながら、発見や体感、共有と対話を通して相互理解を深め、参加者がそれぞれの立場で関門景観について考え行動する一歩となる活動を、両市の大学や行政（関門景観協議会）などと連携して行っている。より関門景観への関心を高めてもらうため、平成 23 年度には、「五感で感じる関門景観・10 選」を募集・選定し、ハンドブックを作成、配布したほか、パネル展を開催する等の取り組みも行われている。

■審査講評：

関門海峡を挟む関門景観形成地区指定（平成 16 年）を契機に両市の建築士会が始めた本活動は、毎年工夫を加えながら進化している。初期の参加者は専門家である建築士会員のみだったが、大学生や小学生親子の参画などを経て、現在は両市の行政とも連携しており、着実にその活動の幅を広げている。

活動内容とその成果も充実している。初期には、建築士会員の現場視察を経て、歴史的建造物への理解や新しい建築物に対する評価のばらつき認識など、専門家としての意識を向上させた。また、地元大学の教員や学生が参画する住民参加ワークショップにより、外の目である学生が地元の意識向上に一役買う一方で学生教育にも寄与している。平成 23 年に行政を巻き込んで実施した「関門景観 10 選」の選定では、公募・視察・ワークショップ実施という過程を踏むことにより、関係者全てに関門地区景観に対する新しい認識を与えた。最近では景観協議への参画など、専門家としての景観形成への貢献を活発化させている。

これら一連の継続的活動は、時宜に応じた様々なアプローチによって全ての関係者の景観に関する意識を高め、理解を進めており、都市景観大賞として高く評価できるものである。（福井）

「優秀賞」（財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞）

■活動名：そらち旧産炭地域における“炭鉱の記憶”の保存・活用
■所在地：北海道空知地域
■応募者：特定非営利活動法人 炭鉱の記憶推進事業団


炭鉱遺産バスツアーの開催：現在も採炭されている露天掘り現場を見学し、その石炭を燃料とした発電所を見学している様子。

■活動の概要：

北海道空知産炭地域は明治 12 年の官営幌内炭鉱（三笠市）開坑から始まるが、平成 7 年の空知炭鉱を最後に坑内採炭の炭鉱は全て閉山し、今日の北海道を語る上で欠くことのできない文化遺産である炭鉱の歴史とその遺産、重要な施設跡、街並みは失われつつある。

わが国の近代化を支えた空知地域の石炭、今日残る“炭鉱の記憶”を地域資源として、保存、活用し、地域の歴史・文化を伝え、また将来につながる地域づくりをめざし、平成 19 年に特定非営利活動法人「炭鉱の記憶推進事業団」が設立した。

見学ツアーや新たな価値を見出す場（「炭鉱遺産を舞台としたアートプロジェクトの開催等）の活用、個人でも見学、まち歩きができるよう、炭鉱の記憶フットパスマップを作成、配布する等、次世代への伝承を地域の方々や専門家とも連携し遂行している。炭鉱施設跡の非日常的な空間の魅力とともに、エネルギーやコミュニティ、命など炭鉱地域ならではのテーマで教育や観光への取り組みも行っている。

■審査講評：

北海道空知地域の炭鉱産業は、1879（明治 12）年にはじまり、その後日本の近代化に大きく貢献してきたが、エネルギー革命および海外炭の増大によって、1995（平成 7）年には完全閉山となった。南北約 80km におよぶこの広大な地域には、近代の産業文化遺産と呼ぶべき貴重な立坑櫓や鉄道、建築、街並みが現在も残っているが、次第に失われる危機にある。

このような状況に対して、NPO 法人「炭鉱の記憶推進事業団」は 2007（平成 19）年に設立され、岩見沢駅前の「そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター」を拠点に、「炭鉱遺産を舞台にしたアートプロジェクト」、「次世代へ伝える、子どもワークショップ」、「幌内線での線路の灯りプロジェクト」、「炭鉱の記憶フットパスマップの作成」等、様々な地域資産の普及啓発活動を実施してきている。その結果、近年は元炭鉱マンが学生のツアーガイドをしたり、当時の炭鉱の様子を模型で再現するなど活発に活動し、地域の誇りやコミュニティの再生の糸口が見え始めている。

負の遺産ともいわれる「炭鉱都市」は、これまで景観の対象とされてこなかったが、私達日本人の貴重な生活の景観歴史資産として評価すべき時期に来ている。今後の保存と活用の展開を多いに期待したい。（卯月）

■活動名：郷土への誇りと愛着を育む「家康学習と景観まちづくり学習」
■所在地：愛知県岡崎市
■応募者：岡崎市立大樹寺小学校


自然・歴史・くらしをつなぎ、誇りと愛着を育む大樹寺から岡崎城への眺望景観（通称：ビスタライン）

■活動の概要：

徳川家の菩提寺・大樹寺から約 3 km 先の岡崎城を望む眺望は、徳川三代将軍家光公が祖父・家康公への尊敬の念を込めて、本堂から三門、総門を通して、その真ん中に岡崎城が望めるように伽藍を配置したことに由来し、約 370 年の長きに渡って、眺望空間の下の住民等の想いによって守られてきた奇跡の景観「ビスタライン」と呼ばれ、広く親しまれている。このビスタラインは、ライン上で生活する地域住民等の理解と協力のもと、岡崎城への眺望を妨げないように建物等の高さに配慮してもらう事で守られてきたが、平成 24 年、岡崎市は、景観法に基づく景観計画や景観条例を制定し、法的措置を伴う高さの規制等の保全策を講じた。

本校南門となる「総門」を題材として、各学年の発達段階に応じて教材化し、体験・体感的な活動を中心に据えて実践を行うことで、意識や関心の高揚につなげ、郷土への愛着を深め、地域の一員として今後もビスタラインの景観を守り受け継いでいこうという誇りの醸成を図っている。

■審査講評：

地域が生んだ英雄をもとに歴史的景観を保持することの価値を認めるための活動であるが、それに留まらない特色がいくつか認められる。一つには、地域が生んだ英雄の生涯から、その人格を賞賛するだけでなく、「自立」というキーワードを設け、6 年間一貫した教育活動が行われている部分である。また、所縁のある史跡や建造物を教材として学習するスタイルから、条例等の法令措置がなくとも地域住民自らの手で、370 年の長きにわたって景観を保持してきた地域の価値を学ぶという部分にも高い評価を与えたい。そこには、景観や建造物そのもの以上にそれらの価値を認め、それを愛し保持する姿こそ大切であるという思いも込められている。そして、発達段階を踏まえたカリュキュラムの構築により、各学年の児童が、地域社会との関わりや連携を持てるよう工夫されている点もよくできている。

カリキュラムの一つ一つに大樹寺小学校ならではの特色がある上、自立という児童の成長につなげようとしている点も踏まえ、学校現場におけるすぐれた実践の一つといえる。（大道）

平成 25 年度　都市景観大賞
「都市空間部門」、「景観教育・普及啓発部門」について

Ⅰ．都市空間部門について

１．表彰目的

都市景観大賞「都市空間部門」は、良好な都市景観を生み出す優れた事例を選定し、その実現に貢献した関係者を顕彰し、広く一般に公開することにより、より良い都市景観の形成を目指すものです。

２．表彰内容

① 大賞（国土交通大臣賞）……原則１～２地区
② 優秀賞 ……数地区
③ 特別賞 ……内容に応じ、適宜選定

３．対象地区の要件

本賞は、街路・公園や公開空地等の公共的空間とその周りの宅地・建物等が一体となって良質で優れた都市景観が形成され、それを市民が十分に活用することよって、地域の活性化が図られている地区を対象とします。単独の公共施設、建築物、構造物は対象になりません。

４．応募者の資格

良質で優れた都市景観の実現に深く寄与した地方公共団体、まちづくり組織、市民団体、民間企業・コンサルタント、独立行政法人、公社等とします。

※多くの関係者による共同応募が望ましいですが、単独でも応募者になれます。

５．審査

「都市景観の日」実行委員会内に設置される都市景観大賞審査委員会において、応募図書等をもとに、内容を審査（書類選考、現地視察）した上で、表彰地区を選定します。

６．審査委員

委員長　陣内　秀信　法政大学教授
委　員　池邊このみ　千葉大学教授
　　卯月　盛夫　早稲田大学教授
　　岸井　隆幸　日本大学教授
　　佐々木　葉　早稲田大学教授
　　高見　公雄　法政大学教授
　　田中　一雄　GK デザイン機構相談役
　　富田　泰行　ﾄﾐﾀ・ﾗｲﾃｨﾝｸﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ・ｵﾌｨｽ代表取締役
　　国土交通省　都市局公園緑地・景観課長
　　国土交通省　都市局市街地整備課長
　　国土交通省　住宅局市街地建築課長

（順不同、敬称略、平成 25 年 5 月現在）

Ⅱ．景観教育・普及啓発部門について

１．表彰目的

都市景観大賞「景観教育・普及啓発部門」は、景観まちづくり学習などの良好な景観に関する意識啓発や知識の普及等を行っている優れた活動を選定・顕彰し、広く一般に公開することにより、より良い都市景観の形成を目指すものです。

２．表彰内容

① 大賞（国土交通大臣賞）……原則１団体
② 優秀賞 ……数団体

３．応募対象

小中学校等における景観まちづくり学習の実施や、街歩きや景観に関するセミナーの開催や地域の景観に関する情報発信など、景観に関する教育、意識啓発、知識の普及等を地域に根差して行っており、その取り組みが地域の人々の景観への意識・関心の高揚につながっている優れた活動を対象とします。

４．応募者の資格

・景観教育や景観まちづくりに関する意識啓発を行っている、学校、まちづくり組織、市民団体、これらの団体を支援している地方公共団体など
・地域に根差した活動で、3 年以上継続して実施している団体

５．審査

「都市景観の日」実行委員会内に設置される都市景観大賞審査委員会において、応募図書等をもとに、内容を審査（書類選考、ヒアリング）した上で、表彰団体を選定します。

６．審査委員

委員長　小澤紀美子　東京学芸大学名誉教授
委　員　卯月　盛夫　早稲田大学教授
　　大道　博敏　江戸川区平井西小学校主幹
　　福井　恒明　法政大学教授
　　国土交通省　都市局公園緑地・景観課長

（順不同、敬称略、平成 25 年 5 月現在）

■主催：「都市景観の日」実行委員会

(公財)都市計画協会、(一社)日本公園緑地協会、(独)都市再生機構、(一財)民間都市開発推進機構、(公社)日本都市計画学会、(一財)都市みらい推進機構、(公社)街づくり区画整理協会、(一社)日本屋外広告業団体連合会、(財)都市づくりパブリックデザインセンター、全国景観会議、都市景観形成推進協議会、歴史的景観都市連絡協議会、全国街路事業促進協議会

■後援：国土交通省

■協賛団体：

(一財)都市文化振興財団、(一財)計量計画研究所、(公財)区画整理促進機構、(社)日本交通計画協会、(一社)再開発コーディネーター協会、(一社)日本造園建設業協会、(一財)公園財団、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会、(公社)日本下水道協会、(公財)自転車駐車場整備センター、(公社)立体駐車場工業会、全国土地区画整理事業推進協議会、都市再開発促進協議会

■事務局：（財）都市づくりパブリックデザインセンター
〒112-0013 東京都文京区音羽 2-2-2　アベニュー音羽 206 号　　TEL 03-69122-0799　　URL http://www.udc.or.jp

【別紙２】

東北管内受賞地区一覧

（平成１６年度～平成２４年度）

平成１６年度　都市景観大賞「美しいまちなみ特別賞」

地　区　名	受　　賞　　者
岩出山町　南地区 （宮城県岩出山町（現：大崎市））	・南町商店街事業協同組合 ・宮城県岩出山町（現：大崎市） ・宮城県古川土木事務所(現：宮城県北部土木事務所)

平成１７年度　都市景観大賞「美しいまちなみ大賞」

地　区　名	受　　賞　　者
小坂町　明治百年通り地区 （秋田県小坂町）	・フラワーボランティアの会 ・秋田県小坂町

平成１８年度　都市景観大賞「美しいまちなみ優秀賞」

地　区　名	受　　賞　　者
黒石市　こみせ通り地区 （青森県黒石市）	・津軽こみせ株式会社 ・青森県黒石市

平成１９年度　都市景観大賞「美しいまちなみ優秀賞」

地　区　名	受　　賞　　者
三春町　大町地区 （福島県三春町）	・磐州通り街づくり協定運営委員会 ・福島県三春町

平成２２年度　都市景観大賞「美しいまちなみ大賞」

地　区　名	受　　賞　　者
金山町　金山地区 （山形県金山町）	・金山地域区長サミット ・山形県金山町

平成２２年度　都市景観大賞「美しいまちなみ優秀賞」

地　区　名	受　　賞　　者
会津若松市　七日町通り地区 （福島県会津若松市）	・七日町通りまちなみ協議会 ・福島県会津若松市

平成２３年度　都市景観大賞【都市空間部門】「特別賞」

地　区　名	受　　賞　　者
仙台市　定禅寺通地区 （宮城県仙台市）	・定禅寺通街づくり協議会 ・宮城県仙台市

平成２３年度　都市景観大賞【景観教育・普及啓発部門】「優秀賞」

活　動　名	受　　賞　　者
建築や都市デザイン手法を用いた景観まちづくり学習	・建築と子供たちネットワーク仙台 （宮城県仙台市）
わくわくタイム（大好き中央台）	・いわき市立中央台東小学校 （福島県いわき市）

（平成１３年度からの受賞地区につきましては（財）都市づくりパブリックデザインセンターのホームページをご参照ください。　http://www.udc.or.jp/activities/taisho/jushochiku.html）